

## 今、教育委員は！

平成 27 年 9 月  
教育長 榎澤 晴樹

### 夏過ぎて秋風渡る畦道に頭（こうべ）を垂れし稲穂も揺れて

～ 8 月末、頭が垂れ始めた稲穂を見て詠む～

今年には本当に暑い夏でございました。猛暑の夏に若干の名残惜しさも覚えますが、今、自然界は日に日に秋色を深めております。例年、お盆を過ぎて、朝夕の秋風を感じる頃になると、垂れ始めた稲穂に「今年もちゃんと実ってくれたな」と安堵するわけですが、9 月も半ばを過ぎ、その稲穂も「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の重さになってまいりました。

ところで、「秋」には、その前に豊富な修飾語が付けられます。読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋、・・・何と言っても「実りの秋」でしょうか。この秋、自分づくりにどんな「実り」をもたらすことができるか、楽しみなテーマですね。

今回は、時節柄、運動会や文化祭での子どもたちの活躍を取り上げようかと考えておりましたが、関連情報は学校他からたっぷり得られると思いますので、別の話題にいたしました。

### ◇ 中学生海外研修報告会に学ぶ

前号で増田教育委員さんからも発信されておりますが、佐久市では、「ふるさと創生人材育成事業」として中学生の海外研修を実施しています。研修先は、モンゴル国ウランバートル市スフバートル区とアメリカ合衆国テキサス州ヒューストンです。前者は佐久市の友好都市のひとつとして派遣も受け入れも行っております。また、後者は「星のまち」に因み、JAXAヒューストン事務所やNASAジョンソン宇宙センターを中心に訪ねる旅となっています。

さて、去る 9 月 13 日(日)、今年の海外研修に参加した 13 名の中学生が研修報告をしてくれました。本事業に格別なご支援をいただいております佐久コスモスロータリークラブの会長さんをはじめ多くの来賓の皆様をお迎えし、研修生のご家族の皆様や大勢の関係者を前にすばらしい発表を繰り広げてくれました。



た。研修生にとってはもちろんですが、報告を受けた私たちにとっても貴重な学習となりました。

〈〈〈〈〈市長のお話から〉〉〉〉〉

研修報告会の冒頭、柳田市長からご挨拶をいただきましたが、その中に海外研修の意義にふれてのお話がありました。心に刻んでおきたい2つのキーセンテンス(※)を紹介させていただきます。

- ※ 海外研修 → 「今まで気付いていない新たな価値を感じる旅」
- 「その国誇りとするところに感心し、関心を深める機会」

〈〈〈〈〈モンゴル国研修報告から〉〉〉〉〉 (文責 榎澤)

- 「水を運ぶ仕事を手伝いながら、水の貴重さを学んだ。日本で水道水が飲めることは何と有難いことか。」
- 「ホームステイでお世話になった皆さんは、挨拶を大事にされていた。皆が挨拶を交し合っって一日をスタートするファミリーのすばらしさにふれた。」
- 「話には聞いていたが、本当に見渡す限りの草原に立った。時間がゆったりと過ぎるような不思議な感じがした。」
- 「言葉が通じない中、いろいろな手段を駆使して言いたいことを伝えた。」
- 「言葉が通じなくても人間は仲良くなれる。」
- 「親元から離れ、初めての外国の地で、自分で考えて行動することができた。」
- 「モンゴルの国の人々の優しさが身にしみた。」



〈〈〈〈〈アメリカ合衆国研修報告から〉〉〉〉〉 (文責 榎澤)

- 「毎日が驚きと発見の日々だった。」
- 「帰ってきたら少し考え方が大きくなったような気がする。」
- 「言葉がうまく通じない中、アメリカ人はたくさん話しかけてくれた。」
- 「日本という国について考え直すきっかけとなった。」
- 「日本のすばらしさに気付くことも多くあった。」
- 「自分から質問したり話しかけたりできるようになった。」
- 「古都奈良や京都について紹介したが、説明しながら、自分自身がもっと日本の文化を知る必要性を感じた。」



- 「話すことは増えたが、聴く事は大変だった。英語をもっと勉強し、いつかまたホストファミリーに再会したい。」
- 『『自由』ということについて改めて考え直す機会を得た。』

<<<<<私が学ばせていただいたこと>>>>>

当日、報告会の会場に入ると、入り口付近に並んだ研修生が満面の笑みと元気な挨拶で迎えてくれました。その姿がすでに海外研修の大きな成果を物語っておりました。研修に参加する前よりはるかに人の迎え方が進化していました。表現力が豊かになったのかもしれない。

この海外研修を振り返っての一人一人のショートスピーチ、そしてチームによる研修報告、いずれも体験に裏付けられて説得力がありました。柳田市長から頂戴したキーセンテンスに呼応するかのように、新たな価値を発見し、その国の誇るところに心動く研修がたっぷりとできたようです。

国際理解は異文化理解であることに違いありませんが、海外研修に参加した中学生の素晴らしい報告に接し、その異文化理解を深めることが同時に自国の文化を見つめ直し、自己の生き方について考えることにも通ずるという事実を目の当たりにいたしました。研修生は、口々に感謝の気持ちを表しておりましたが、そういう中学生諸君の育ちにふれ、私も喜びと感謝でいっぱいです。

#### ◇ 追伸・・・「デンジソウも元気いっぱい」

この4月岩村田小学校から分離新設となって開校した佐久平浅間小学校には、自然観察池が設置されています。8月の終わり、同校の校長先生から「観察池のデンジソウが見事になりました。まるでグリーン車のマークのようです。」と、ご案内をいただき、見に行ってきました。

デンジソウは佐久平浅間小学校が建設される前、建設地となる水田の一部に生息していた水生シダ類の一種で、絶滅危惧種に指定されています。この貴重なデンジソウを保護し育てていくために観察池に移植したのです。

デンジソウは名前の通り田の字に葉を広げ、その鮮やかな緑色が目に飛び込んできました。

大きいものは田の字の一辺が5cmを超えるサイズでした。元気いっぱいのデンジソウですが、子供たちも先生方も、この冬をどうやって越させたらよいかと案じておられました。素敵な問題意識ですね。



<観察池でデンジソウを見る子ども達>



<元気に育つデンジソウ>